

1. 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】**【学校】**

- ・落ち着いた学校生活を送っていて、生徒は学習や学校行事、部活動に楽しく熱心に取り組んでいる。また、集団の場での態度も良く、あいさつなどもできている。
- ・課題としては、放課後の校外での生活で指導が必要な生徒が一部にいることや生活全般にさらに規範意識をもった生徒集団を育て、地域から一層の信頼を受ける学校にすることである。

【生徒】

- ・明るく、素直な生徒で教師の指導によく従い、学習意欲も比較的高く、学力や体力の面で高いレベルをもっている。
- ・課題としては、一部の生徒が学校に不適應の症状をみせたり、怠学傾向がみられることである。一人ひとりの状況に応じたきめ細かい指導が必要である。

【教師】

- ・授業を大切にし、補充授業を熱心に行うなど生徒の学力定着に意欲的に取り組んでいる。
- ・課題としては、授業改善や授業規律の向上にさらに力を入れ、生徒指導の充実を組織的に図るなどより一層高いレベルの教育指導が行えるようにすることである。

【保護者】

- ・PTA 役員を中心に大変協力的である。保護者会などへの参加がさらにほしい。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組みの概要**重点的な取組事項－1 高い規範意識をもった生徒の育成**

1. 登校時や校内でのあいさつ及び身だしなみを整える活動の活性化
→ 生徒会活動の活発化や教職員による指導や呼びかけの充実。肯定的な評価をする生徒を70%以上に。
2. 学校内外での行動やマナーの向上
→ 生活指導部を中心とする指導や生徒会のキャンペーンの推進。良いとする評価が70%以上がめやす。
3. 生活指導や道徳授業の充実
→ 指導を重点化し、生活指導上の課題を前年比でマイナスとすること。道徳に関する研修回数を増やす。

重点的な取組事項－2 授業への集中と学習習慣づくりを通じた学力の向上

1. 授業規律の確立
→ 授業内容の工夫・改善。また、授業中の指導を重視する。授業へ集中する生徒が80%以上にする。
2. 家庭学習の充実
→ 家庭学習を習慣づける指導の強化。家庭学習時間が増加した生徒が70%以上になることが達成基準。
3. 学習意欲の向上と学習習慣づくりの推進を図る取組みの実施
→ 漢字、計算、スペリングコンテストの実施。各種コンテストでの合格率が80%以上をめやすとする。

重点的な取組事項－3 保護者、地域の期待に応え、たくましく生きる力をはぐくむ教育活動の展開

1. 保護者や地域の学校に対する期待の把握と学校評価の改善
→ 地域や関係小学校PTAとの連携や協議によるニーズの把握と学校評価の改善
2. ボランティア活動など自発的活動の推進
→ 開かれた学校づくり協議会と協力してボランティア活動を推進。50%以上の生徒の参加が基準。
3. キャリア教育などを通じて生きる力を身につける
→ 開かれた学校づくり協議会と協働で職場体験の充実や進路指導の工夫・改善。

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－１ 高い規範意識をもった生徒の育成

身だしなみの面ではだいたい生徒が良い状態である。しかし、一部の生徒に乱れがあるため、全体として良い状態とは言いきれないのが残念である。また、あいさつも交わそうとする生徒が多いが、先生やお客様に自らできる生徒がまだ少ないなどの課題もある。生徒自身に課題意識をもたせながら効果的な指導法を考えていきたい。学校内外での行動やマナーの向上は前年度より向上してきたという声もあるが、まだ不十分であり、今後も考えて行動する力、善悪の判断を的確に行う力などを重点的に育てていく。また、自他の尊重や思いやりを中心にした人権尊重の精神に富んだ生徒の育成を図り、高い道德意識や規範意識を内面から育てていく。

重点的な取組事項－２ 授業への集中と学習習慣づくりを通じた学力の向上

授業規律の確立を掲げたが、不十分である。生徒自身はそれなりにできているという意識もあるが、教員や保護者から見れば不足していることがまだある。もっと、真剣に、集中して学習に取り組む姿勢を生徒自身が当たり前のように身につけるようにしたい。それと並行して教員の授業改善が必要であり、指導内容や指導法の工夫を日常的な指導や研修会を通して取り組んでいく。家庭学習については、家庭学習帳や生活の記録などを活用して一人でも多くの生徒が習慣になるように指導していく。また、朝読書や各種コンテストの取り組みを工夫してさらに意欲的に学習習慣が身につくようにする。

重点的な取組事項－３ 保護者、地域の期待に応え、たくましく生きる力をはぐくむ教育活動の展開

保護者の評価をまとめると、教員の意識や態度、学校の地域に対する姿勢や保護者との連携については良い評価が多いが、生徒の様子についてはまだ満足できないというものである。より良い生徒像を求めて、生徒の変容を目指すために教育活動を行っているが、なかなか簡単には変わらないものもある。そして、学校の力だけではうまくいかないものもある。これまでも保護者、開かれた学校づくり協議会、地域社会と手を携え合って教育活動を推進してきたが、今後も継続して取り組んでいく。今年度は教員が地域の小学校に出向いて英語の授業を行ったり、吹奏楽部生徒が小学生に指導するなど小中の交流活動を新たに進めてきた。次年度は地域行事への生徒参加を増やし、地域社会と一体となって、生徒のこころを育て、優しさとたくましさを具えた人格の発達を促していく。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

これまでも保護者、PTA、開かれた学校づくり協議会、おやじの会には土曜スクールやボランティア活動（校内ペンキ塗り、地域清掃活動）、祭礼・地域パトロールなどを通じて、生徒の人格形成に向けて温かい援助をいただけてきました。また、学校公開週間や運動会などの学校行事でもスタッフの一員として活動していただいていることに、心より感謝申し上げます。

今の学校の教育活動はこれらの援助がなくては成り立たないものもあり、そうした意味で学校と一体になって生徒の教育活動を推進していると考えています。

また、地域からは職場体験学習や保育実習など実践的な教育活動の場が提供され、生徒たちの生きる力の育成にも大きく貢献していただいています。さらに、地区対や地少協の行事、住区センターや高齢者施設でのボランティア活動や地域の方々との交流活動など多くの場面で生徒が地域の方々から学ぶ機会を得ていることも、学校にとっては大きな力となっています。

今後はこうした活動を、新学習指導要領への移行や土曜授業の実施などの新しい状況と照らし合わせながら、より効果的なもの、今必要なこと、求められていることを考えながら進めていきたいと思えます。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

2. 平成22年度の重点的な取組事項

<達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る>

重点的な取組事項－1 高い規範意識をもった生徒の育成

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
身だしなみや挨拶、学校内外での生活で望ましい態度や行動ができる生徒の増加	生徒、保護者等の評価で80%が肯定的評価	生徒自身は良いとする評価が多いが、保護者、教員からは厳しい評価も出ている。	達成度としてはまだ物足りない。学校内外で更に高い規範意識に基づく行動をさせたい。	△

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
登校時や校内での挨拶及び身だしなみを整える活動の活性化	よくできているという生徒が70%以上	生徒会活動の活発化や教職員、PTAによる指導や呼びかけの充実	生徒自身は80%以上が肯定的な評価。保護者は72%が普通以上、教員は肯定的な評価は54%にとどまる。	保護者の27%、教員の46%が否定的な評価であり更に改善が必要。	△
学校内外での行動やマナーの向上	教職員・保護者・地域での肯定的評価が70%以上	生活指導部を中心とする指導や生徒会のキャンペーンなどの推進	地域での挨拶は保護者の評価は74%が普通以上。学校外での行動について教員の肯定的な評価は34%。	良くなってきたという教員の評価は34%。まだ不十分である。	△
生活指導や道徳授業の充実	生活指導上の課題の減少。道徳および道徳授業に関する研修の増加	生活指導上の課題を前年比でマイナスとする。道徳に関する研修回数の増加。	件数的には減少している。道徳の研修は増加できなかった。	こころを育て、規範意識を高める指導を今後も継続する。	○

重点的な取組事項－2 授業への集中と学習習慣づくりを通じた学力の向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
授業規律を高め、家庭での学習習慣を身につける	授業に集中している生徒が80%以上。家庭での学習時間が増加した生徒が70%以上。	生徒の自己評価に比べ教員、保護者の評価は厳しい。特に家庭学習は物足りないという結果。一方、コンテストへの取り組みは良かった。	教員、保護者の評価が厳しいのは、授業や学習に対して更に真摯な取り組みを期待しているから。生徒の学力の伸び方もまだ不十分である。	△

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
授業規律の確立	授業への集中と意欲を持つ生徒が80%以上	授業内容の工夫・改善。また、授業中の指導を重視すると同時に学級、学年の指導を計画的に行う。	授業規律の評価で保護者は否定的なものが30%で肯定的な評価を上回る。教師は60%がだいたい良いと評価。	保護者と教員の評価が違うのは評価する場面の多寡にもよる。良い面もあるが、まだ不十分。	△
家庭学習の充実	家庭学習時間が増加した生徒が70%以上	家庭学習の習慣化と学習時間の増加についての指導の強化。保護者への啓発。	夏休み前に比べて43%の生徒が増加と回答。ただし、1、2年生は増えた生徒は少ない。教員は92%が増えていないと感じている。	入試とは関係なく増えるようにしたい。教員の求めるレベルに生徒の意識を変えていきたい。	△

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
学習意欲の向上と学習習慣づくりの推進を図る取り組みの実施	各種コンテストでの合格率が80%以上	全校的な漢字、計算、スペリングコンテストの実施。朝読書による落ちついた学習環境づくり。	例としてスペリングコンテストの結果は1年76%、2年80%、3年71%が合格。教員は96%が生徒の取り組みを肯定的に評価。	もう少し合格率が高くなって良い。朝読書は良く取り組んでいる。	○

重点的な取組事項－3 保護者、地域の期待に応え、たくましく生きる力をはぐくむ教育活動の展開

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者や地域と協働で生徒の生きる力をはぐくむ	地域、保護者の力を活用した教育活動への生徒参加の増加と自己有用感を持つ生徒を70%以上とする	地域行事のお手伝いや演奏参加、特養ホームでのボランティア活動など41%の生徒が参加した。	自己有用感に関するデータは取れなかった。一人一ボランティアと合わせて次年度の課題としたい。	△

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者や地域の学校に対する期待の把握と学校評価の改善	地域の小学校保護者から意見を聴く機会の開設	地域や関係小学校 PTAとの連携や協議によるニーズの把握と学校評価の改善	地域の小学校保護者から意見を聴く機会は設けられず、学校に対する要望を把握できなかった。	小学校PTAとの交流計画が実施できず、課題が残った。	●
ボランティア活動など自発的活動の推進	全校生徒の50%以上がボランティア活動に参加	開かれた学校づくり協議会や地域と協力してボランティア活動を推進	各種ボランティアに参加した生徒は2年生は50%に達したが、1、3年生は50%に届かず、全体では41%であった。	来年度は「一人一ボランティア」を掲げ、目標の達成を目指す。	△
キャリア教育などを通じて生きる力を身につける	地域の力を活用したキャリア教育の取り入れ	開かれた学校づくり協議会と協働で職場体験の充実や進路指導の工夫・改善	職場体験学習、保育実習などが充実して行われた。	キャリア教育の拡充について今後も努めていきたい。	○

3. 学校活動全般について

<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の取り組み事項の自己評価は厳しい結果になった。これは、成果目標に連動した取組みの達成基準を高くしたためかもしれない。しかし、それは学校としての期待値の表れであり、そのレベルにまで生徒を引き上げていきたいという願いでもある。今年度達成しなかったものは、次年度も継続して取り組んでいく。 ・教員の経営目標に対する評価が厳しいのは良い傾向であると考え。現状に甘んじることなく、さらに良い教育活動、望ましい生徒の姿を求めていきたい。 ・今後の教育活動について、自他の尊重と仲間を大切にする人権尊重の精神を学校全体に広め、誰もが思いやりと温かい気持ちにあふれ、いじめのない安心して勉強や部活動に取り組んでいける学校づくりに力を入れていく。
--